

土地連会長に喜屋武氏

現職と同数、くじで決定

米軍基地や自衛隊基地などの地主でつくる県軍用地等地主会連合会(土地連)は1日、二役を改選し、新会長に嘉手納町軍用地等地主会会長の喜屋武茂夫氏(67)が選出された。

再契約応じる意向

会長の互選で前会長の浜比嘉勇氏と、喜屋武氏が立候補。14



喜屋武茂夫氏

人の理事らの投票で獲得票が同数だったが、

くじ引きで喜屋武氏が当選した。また副会長に、島袋利治氏(名護市軍用地等地主会会長)、新崎清光氏(那覇市軍用地等地主会評議員)が選ばれた。任期は2014年3月までの2年間。土地連は5月14日に、

防衛省との軍用地賃貸借契約が満期を迎える。向こう20年の再契約で、土地連が求める土地評価見直しなどに対し同省が応じておらず、契約には至っていない。

喜屋武新会長は「(12年度の)地料がスムーズに支払われるよう進める」と述べ、沖縄防衛局と協議した上で契約に応じる考えを示した。

土地連会長に喜屋武氏 現職と同数、くじで決定(その2)

地主、支払い遅れ懸念

柔軟姿勢に支持集まる

県軍用地等地主会連合会(土地連)の会長改選は6年ぶりに決選投票となり、くじ引きの末、浜比嘉勇氏は再選を果たせなかった。

5月14日に満期を迎える米軍用地の20年の賃貸借再契約で、土地連が求める賃貸料算定方式の見直しや賃貸料を1782億円に近付けることに防衛省は応じていない。ぎりぎりまで契約せずに交渉するという浜比嘉氏の方針に対し、地主から賃貸料支払いが遅れることへの懸念が高まり、柔軟姿勢で防衛省側との交渉に臨む喜屋武茂夫氏と支持が割れたことが反映した。

地主の契約同意書について、土地連は各地主会の会長が預かり、防衛省側と交渉してきた。新会長の喜屋武氏は、沖縄防衛局側と早めに交渉するとした上で「契約は更新しないといけない。(例年の)7月末に絶対に地料が支払われるようにしたい」と強調した。

2011年度の交渉で同省が地主らの契約同意書の複写(コピー)を基に契約更新できるとし、土地連が強く反発した。問題は解決していないが、29日の土地連総会では同省のやり方への批判よりも、再契約遅れによる2012年度の賃貸

料支払いが遅れることへの懸念の声が目立った。沖縄市議の浜比嘉氏は政治家としての強いつながりやをバックに防衛省側に圧力を掛けてきた。浜比嘉氏が会長職から去ったことで、防衛省側が今後、土地連の要求に対して厳しい姿勢で臨む局面もありそうだ。

土地連会長に喜屋武氏

6年ぶり選挙 浜比嘉氏敗れる

県軍用地等地主会連合会（土地連）は1日の理事会で、新会長に喜屋武茂夫氏（67）＝嘉手納町軍用地等地主会会長＝を選出した。任期2年の会長は土地連理事14人による互選。今回は、2期4年務めた浜比嘉勇会長（65）と喜屋武氏の2人が立候補し、6年ぶりの選挙となった。投票の結果、7対7の同数となり、くじ引きで喜屋武氏が当選した。

国提示額で応諾意向

理事会後、喜屋武氏は5月に期限切れを迎える20年ごとの再契約について「沖縄防衛局と誠心誠意話し合いたい。借料の支払いを遅らせてはいけない」と記者団に述べ、国が提示してい

る総額約932億円（前年度比1・64%増）で妥結する意向を示した。予約締結同意書のコピー問題については「コピーに基づいて再契約することがないようにしたい」とし、円滑な契約手続きに向けて同意書の原本を国に提出する考えを示した。

理事会では新副会長2人に島袋利治氏（名護市軍用地等地主会会長）と新崎清光氏（鏡水軍用地等地主会会長）も選出。三役の顔触れが一新した。



喜屋武茂夫氏

土地連会長に喜屋武氏 6年ぶり選挙 浜比嘉氏敗れる(その2)

借料支払い遅れを懸念

国との対峙路線に不満

6年ぶりとなった県軍用地等地主会連合会(土地連)の会長選挙は、国側と交渉を続けている賃貸借料の下落とどころが争点となった。国の提示額を拒み続け、契約切れを迎える5月に再契約ができないという緊急事態だけは回避したいという土地連内の情勢が選挙結果に反映された形だ。

現会長の浜比嘉勇氏は大幅増の総額1782億円を掲げた「強硬派」。対する新会長の喜屋武茂夫氏は会員約4万人のスムーズな再契約を優先し、国と折り合う構えをみせる「穏健派」という構図となった。

浜比嘉氏が「自分の(国と)戦う姿勢に反発があった」と言うように、強気に国と対峙し続ける路線に懸念の声はあった。会員には大口の地主は少なく、大半は年間借料100万円以内。「借料で生活をまかなっており、支払いが遅れる不安が強かった」(喜屋武氏)。

結果的に「いつまでも(予約締結同意書の)コピー問題(交渉を)引っ張るのはいかなものか。土地連として得策ではない」(同)という見方が浜比嘉氏の対抗馬擁立へとつながった。

選挙となった背景に役員人事をめぐる対立もある。土地連は地域バランスを考へ、会長は中部から、副会長は南部、北部から1人ずつ出すのが慣例だった。しかし前回(2年前)は「1回限り」という条件で、沖縄市の浜比嘉氏が会長となり、さらに中部から副会長1人を選んだという。

浜比嘉氏によると、今回は慣例通りに戻そうとする中、中部からの副会長が続投を希望。双方の認識の違いが会長選挙にもつれ込む素地にもなった。

新会長に選出された喜屋武氏は穏健派の実務型と評されるが、国側との人脈の弱さを不安視する向きもある。浜比嘉氏は与野党の国会議員との太いパイプを武器に、閣僚や高級官僚とも渡り合ったが、喜屋武氏は「これまで政治にノータッチで(交渉)ルートがない」と話すなど、両氏は対照的だ。

土地連は5月の再契約問題のほか、本年度は公益社団法人への移行や新会館建設など課題も多い。ただ、強硬路線の浜比嘉氏に手を焼いていた防衛省サイドが、柔軟姿勢をみせる新会長を好感するのは間違いない。喜屋武氏は「誠心誠意話し合いをすれば、悪い結果にはならない」とし、人脈づくりに努める考えだ。

(政経部・西江昭吾)